

全国豊かな海づくり大会

今年、岐阜県で開催された「第30回全国豊かな海づくり大会」。ひるがのでは北小の子どもたちとともに分水嶺公園でのイベントに参加されたりして、ご存知の方もいらっしゃるね。「全国豊かな海づくり大会」は、毎年各地で開催されています。貝や魚などの水産資源を生みだす海と、それをとりまく湖沼・河川の環境保全に対する意識を高めることを目的に、昭和56年、第一回目が大分県で開かれたのが始まり。今年には第30回目の大会となり、岐阜県で開催されました。

豊かな海は、豊かな山と川からつくられる。 長良川・荘川源流に住む私たちにできること。

「海のない岐阜県で、海づくり？」ピンとこない感じもします。しかし、岐阜県を源流とする川は8本もあり、岐阜県は豊かな海の源ともいえます。海のない県で初めての開催となる今大会では、「森川海が一体となった自然環境の保全の重要性」を全国に発信。川と海を回遊して生きるアユやアマゴなどの魚をイメージした「回遊旗」を、沿線の市町村にて受け渡していくリレーが開催されました。ひるがのでは、昨年10月にふたつの回遊旗が長良川、荘川のそれぞれの河口を目指して分水嶺公園を出発、今年4月16日、再び分水嶺に帰ってきました。北小の5・6年生が代表で旗の受け渡しを行い、「郡上市の歌」を元気よく斉唱。子どもたちの「美しい森、きれいな川が大人になっても続くように守ります」という力強い言葉のように、源流の地域に暮らす私たちだからこそ、豊かな海のためにできることがたくさんある気がします。



4月の分水嶺の式典では、北小の5・6年生がそれぞれ回遊旗と寄せ書きを披露し、それらは児童の手から日置郡上市長に。市長から上手岐岐阜県副知事に手渡されました。

- 全国豊かな海づくり大会の本大会は、6月13日(日)関市で開催。
 - 前日6月12日(土)には、岐阜市や郡上市八幡町でも、イベント開催。
- 詳しくは、岐阜県のホームページ、役場のチラシなどをご覧ください。



「ヤマリン」の祖先は、岐阜の清流に住んでいたオオサンショウウオでした。ある日、大雨、雷、大洪水により、海へ流されました。その時のショックで海でも生活できる能力を授けられました。森、川、海どこでも育つことのできる「ヤマリン」は、まさに清流をこよなく愛するキャラクターなのです。名前の由来は、山の「ヤマ」と海の「マリ」を表しています。

頭部

頭は緑で「山」の形をしていて、豊かな「山(森)」を表しています。ピンクの花は鼻の形「れんげ草」です。【山(森)の標高:68cm】

胴部

体は上流から下流、そして海につながるたくさんの「川」を表しています。【川の長さ:93cm】

足部

足は水色をバックに白い水玉模様で、豊かな「海」を表しています。【海の水深:44cm】

お仕事 子どもたちと遊ぶこと
第30回全国豊かな海づくり大会のPR

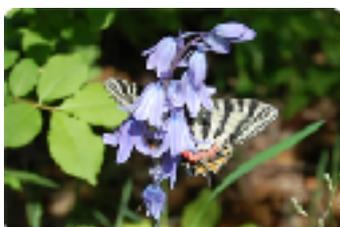
清流 長良川国体キャラクター ミナモもよろしく!



ギフチョウの保護について

ひるがの高原のギフチョウは学術的にも貴重なものです。天然記念物として生息地(カンアオイ群生地)が郡上市重要文化財指定にもなっています。しかしながらマニアの間で高値で取引されることもあってか、都会から捕獲に来る者もあとを絶ちません。

地元・高鷲北小学生たちが、ギフチョウを増やそうと活動していることもあり、そうした捕獲者には、注意を促したいと、文化財保護協会と観光協会ひるがの支部が一緒になって見回りの活動をしています。みなさんも捕獲者を見つけたら、観光協会までご一報下さい。(0575-73-2241)



※万一ではありますが、注意の際には危険が伴うことも予想されますので、ひとりでは注意しないで下さい。

夏のひるがの高原スキー場が生まれ変わりました。



【コキア】とは…

晩秋に枯れて葉を落とした枝を束ねてホウキに利用することから、別名はホウキグサ。

秋田の「とんぶり」は、秋に実るコキアの実を食用に加工したものです。ぶちぶちとした食感には「畑のキャビア」と称されることもあって人気です。この実は薬用にも加工できるほか、若い枝は茹でておひたしなどで食べることもでき、利用価値も高く、無駄のない植物です。夏には爽やかなグリーンの葉は、秋になると真っ赤に紅葉し、季節ごとに違った美しさで楽しませてくれます。もこもこした姿が愛らしいコキア。ひるがのの新しい名物になってくれるといいですね。

ひるがの高原スキー場のリフト運行について

山菜シーズンの6/20まで、ひるがの高原スキー場のクワッドリフトが運行されます。また、7/17から8/31、9/18~10/31の間もペアリフトが運行されます。いずれもスキー場さんの計らいでひるがの住民は無料で載せていただけます。ご利用ください。